

平成25年度第1回 県立病院を良くする会 次第

日 時 平成25年9月9日（月）
午後3時から
場 所 徳島県立中央病院3階 講堂

1 開 会

2 議 事

- (1) 徳島県病院事業経営計画の策定について
- (2) 各病院の平成25年度の取組状況について

3 閉 会

【配付資料】

- 資料1：徳島県病院事業経営計画の策定について
- 資料2：各病院の平成25年度の取組状況について

参考資料：平成25年度「徳島県病院事業第二次経営健全化計画」の取組状況

平成25年度

第1回県立病院を良くする会

徳島県病院事業経営計画の策定について

基本理念

「県民に支えられた病院として、
県民医療の最後の砦となる」

経営健全化基本方針 (H16.3策定)

○ 平成16年度から25年度まで(10年間)の経営健全化対策の方針

「経営状況が悪化する中、経営の健全化対策の基本的な方向性を明示し、県立病院の医療機能の維持向上を図る。」

経営健全化計画

第1次計画

H16～H20

- ・経営体制の強化
(地方公営企業法の全部適用による病院事業管理者の設置)

- ・恒常的な赤字体質からの脱却

第2次計画

H20～H25

- ・「徳島県医療全体の最適化」を見据えた
医療提供体制の構築

- ・効率的で強固な経営基盤の構築

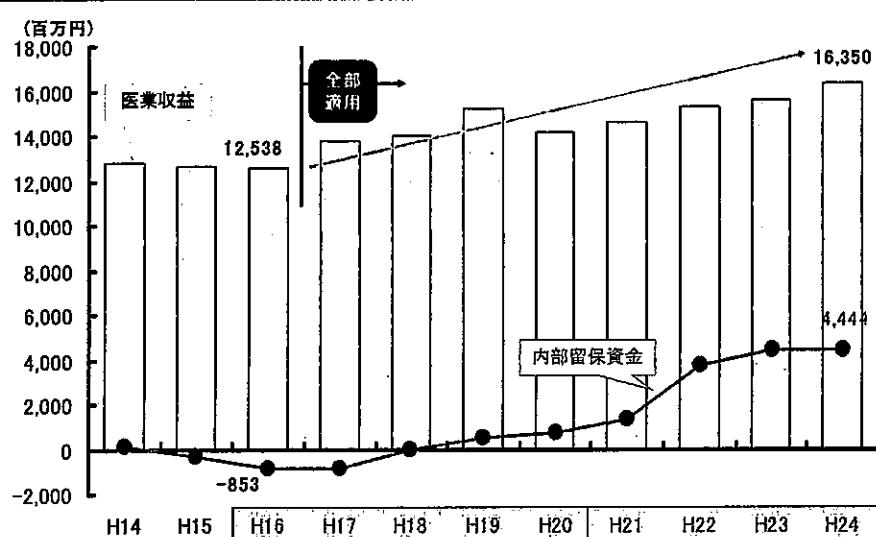
経済性と公共性の再構築

赤字体質からの脱却 (効率的で強固な経営基盤の構築)

- 本業のパフォーマンスを示す「医業収益」は、上昇基調を維持。

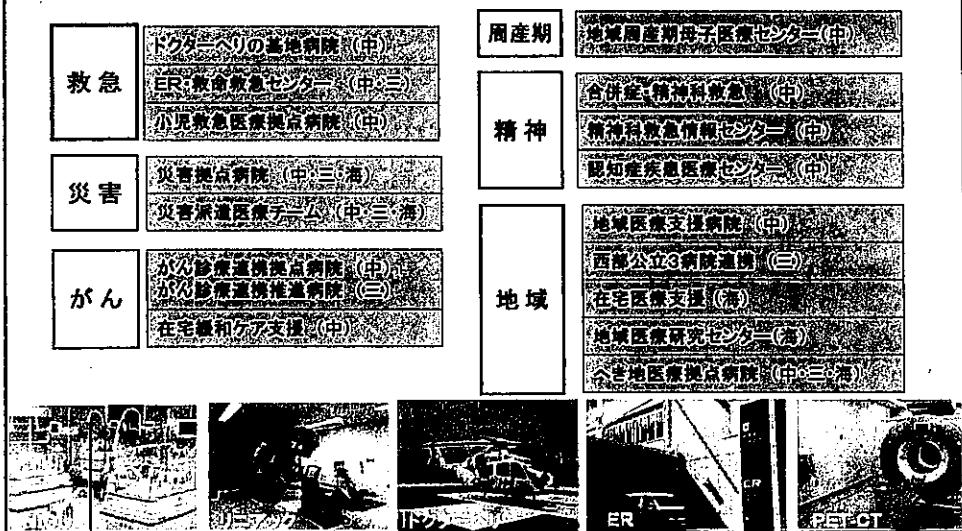
- 資金面での健全性を示す「内部留保資金」も増加。

* 内部留保資金とは、流動資産から流動負債を差し引いた額



医療提供体制の構築

- 基本理念「県民に支えられた病院として県民医療最後の砦」を実現するため、地域の医療機関と連携し、高度専門医療及び政策医療を提供



第二次経営健全化計画の主な取り組み状況

1. 医療の質の確保

□ 高度医療の充実

リニアック、CT、MRIなどの高度医療機器を導入、積極的な活用

□ チーム医療の実践

すべての職種が患者さんを中心としてファインチームワークを発揮し医療を行う「チーム医療」の実践

□ 患者さんのQOLの向上

各職種の職員がそれぞれの有する専門的能力を発揮し、患者さんのQOLを高める指導や相談活動の実施

- ・薬剤管理指導
- ・栄養管理指導
- ・検査手帳及びレントゲン手帳の一体化運用

□ 地域医療連携体制の構築

地域連携クリティカルバスの積極的運用

□ 専門性を高める資格取得や研修受講の促進

これまで13名の認定看護師が誕生

第二次経営健全化計画の 主な取り組み状況

2. 医療の透明性の確保

- D P C（診療群分類別包括評価制度）の導入
 - 中央病院 平成18年度導入
 - 三好病院 平成24年度導入
 - 海部病院 平成21年度導入
- 病院統計「臨床指標」の公開
 - 科別手術件数、地域別患退院患者数、救急患者数、科別入院平均在院日数等を病院のホームページで公開
- 私のカルテの発行
 - 患者さんと一体となった医療を実践するため、診療録、看護記録、検査結果などを「私のカルテ」として発行

第二次経営健全化計画の 主な取り組み状況

3. 医療の効率性の確保

- 新規患者の受け入れ
 - 中央病院、三好病院において、急性期医療の発揮を目指し、地域医療機関との連携により新規入院患者数の増加を図る。

H24年度新規患者数	中央病院：10,114名 (H23年度比571名増)	三好病院：3,363名 (H23年度比60名増)
H24年度一般病床平均在院日数	中央病院： 9.8日 (H25年度目標値13.0日)	三好病院： 17.2日 (H25年度目標値18.0日)
- 後発医薬品の採用拡大
 - 患者さんの負担軽減とともに薬品費の削減に繋がるため採用を拡大する。

H24年度購入額割合 (H25年度目標値10.0%)	中央病院：8.3%、三好病院：8.6%、海部病院：7.7%
----------------------------	-------------------------------
- 医薬品・医療材料の共同購入
 - 高額医療器械の一括入札、医療材料の共同入札・購入を実施
- 経営指標（経常収支比率）
 - H24年度経常収支比率 97.4% (H24年度目標値 94.1%)

赤字体質を脱却を目指し、
「効率的で強固な経営基盤づくり」を進めてきた。

国の交付金(地域医療再生・耐震化)を活用し、
3病院の改築という「未来への集中投資」に着手。

新中央病院 開院



H24.10 開院

三好病院 高層棟改築



建設中

海部病院 移転改築



現在
基本実施設計中

これらの投資を県民の皆様へ最大限に還元！

➡ Next Step 新たな『経営計画』を策定

第二次計画策定以降の 病院事業を取り巻く主な環境変化

- ◇ 地域の医療課題の解決に向けた地域医療再生交付金を活用した病院改築等への支援
- ◇ 南海トラフ巨大地震等の大規模災害への対応
- ◇ 地域偏在や診療科偏在による慢性的な医師不足
- ◇ 県立中央病院を基地病院とするドクターヘリの運行開始
- ◇ 国の医療費適正化の総合的な推進
- ◇ 地方独立行政法人徳島県鳴門病院の設立

新たな計画の基本的視点

- ・県立病院を取り巻く環境の変化に適切に対応
- ・「総合メディカルゾーン本部(中央病院・徳島大学病院)」、「総合MZ西部センター(三好病院)」、「総合MZ南部センター(海部病院)」が持つ機能を相互に補完し、関係医療機関と連携
- ・新病院の整備で強化した医療資源を最大限に活かし、より一層の政策的な医療を提供



3病院が一体となり、
「医療の質の向上」や「人材の育成・確保」を図り、
県全体の「医療の最適化」を目指す！

■今後の県立病院の将来像

『県民医療最後の砦』としての使命を全うし、県民生活の安全安心を守る

3病院の改築で、新病院が始動

地域枠医師が医療の現場へ

医療ネットワークの充実

中央病院(MZ本部)を核に、
県立病院の力を結集し、県民医療を守る

- ・ドクターヘリ→20分で県内全域をカバー
- ・ICTの連携を進め、医療情報ネットワーク化を推進
- ・県立病院間での人材交流を拡大

中央病院　本県医療の中核拠点

- ・ドクターヘリの機動力を活かし、小児から高齢者までの「フルカバーの救命救急」
- ・高い防災対応力を誇る災害医療の要
- ・「志」と「臨床力」の高い医師を輩出する実践教育病院
- ・MZ本部として、高度な医療を提供

総合MZ 西部センター
三好病院

総合MZ 本部
中央病院・徳大病院

総合MZ 南部センター
海部病院

三好病院　四国中央部の拠点

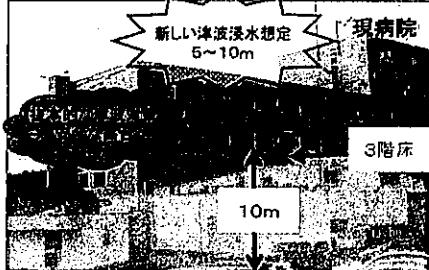
- ・救命救急、西の砦
- ・放射線治療から緩和ケアまで、フルセットのがん医療を提供
- ・地域医療支援病院として、公立3病院での連携を進め、地域完結型の医療体制の構築をリード

海部病院　地域医療の拠点

- ・巨大地震を迎える前線基地
- ・地域医療を担う総合診療医の育成道場

担うべき医療機能	
中央病院	
(1) 病院の機能	
○急性期病院 ○地域医療支援病院	
(2) 位置づけ	
○県全体の医療水準を高め、地域医療に貢献するリーディングホスピタルとしての機能を有する。	
△総合メディカルゾーン構想の推進	
(3) 医療機能	
<p>○急性期医療 「急性期病院として疾病の発生」「後、急性期医療における高度な治療を担う。」</p> <p>○救急医療 「救命救急センターとして24時間365日、緊急性の高い状況に対応し迅速な治療を行うとともに、小児救急医療の専門病院として小児救急患者の救命率向上に努める。また、ドクターヘリの導入地病院として、医療体制の強化を図る。」</p> <p>○がん医療 「地域がん診療連携拠点病院として、専門的医療の提供を行い、高度医療機器を活用したがん治療の高度化を達成する。」</p> <p>○小児医療 「小児科を身体合併症別診察室として対応するとともに、精神科や児童相談センター等を連携し、総合医療全般を対象とした診療を行つ。」</p> <p>○災害医療 「県内唯一の東海地震災害拠点病院として災害医療を提供する中心的役割を担う。」</p> <p>○小児・周産期医療、○感染症医療、○へき地医療</p>	

担うべき医療機能	
三好病院	
(1) 病院の機能	
○急性期病院 ○地域医療支援病院	
(2) 位置づけ	
○西部保健医療圏域における地域の中核病院としての機能を有する。四日市中央部の拠点病院を目指す。	
(3) 医療機能	
<p>○急性期医療 「急性期病院として疾病の発生」「後、急性期医療における高度な治療を担う。」</p> <p>○救急医療 「救命救急センターとして24時間365日、緊急性の高い状況に対応し迅速な治療を行うとともに、超急性期の救急患者を高次医療機関へドクターヘリで搬送することにより救命率の向上や救急症の対応を図る。」</p> <p>○がん医療 「地域がん診療連携拠点病院の指定を目指し、総合的治療体制を整備するとともに、緩和ケア病棟において、治療の初期の段階から緩和ケア体制を図り、県内の緩和ケアの水準向上のための先駆的役割を果たす。」</p> <p>○災害医療 「災害拠点病院として必要な施設や設備を整備し、震災・台風などの発祥を受入れるなど、災害時の医療救援において中心的な役割を担う。」</p> <p>○小児・周産期医療、○感染症医療、○へき地医療</p>	

担うべき医療機能	
海部病院	
(1) 病院の機能	(3) 医療機能
○急性期病院	○急性期医療 「急性期における一般的かつ標準的な医療を組み、高度・専門的医療は専外の医療機関との連携を図る。」
(2) 位置づけ	○救急医療 「2次救急医療機関として入院治療を要する患者の受け入れを行うとともに、超急性期の救急患者を高次医療機関へドクターへリで搬送することにより救命率の向上や予後症の改善を図る。」
○高齢保健医療区域における地域に密着した病院として、総合診療医の育成を囲む医師教育性の充実を図る。	○災害医療 「災害拠点病院として必要な施設や設備を備えし、既定の範囲で患者を受け入れるなど、災害時の医療体制活動において中心的な役割を担う。」
	●小児・周産期医療 ●感染症医療 ●地域医療 ●在宅医療

策定スケジュール		
平成25年度	内 容	病院の全体像、 担うべき機能
9月	県立病院を良くする会の開催	
9月～11月	「具体的取り組み」・「収支計画」の検討、取りまとめ	
12月	県立病院を良くする会の開催 計画（案）	
1月	パブリックコメントの実施	
3月	計画の策定	

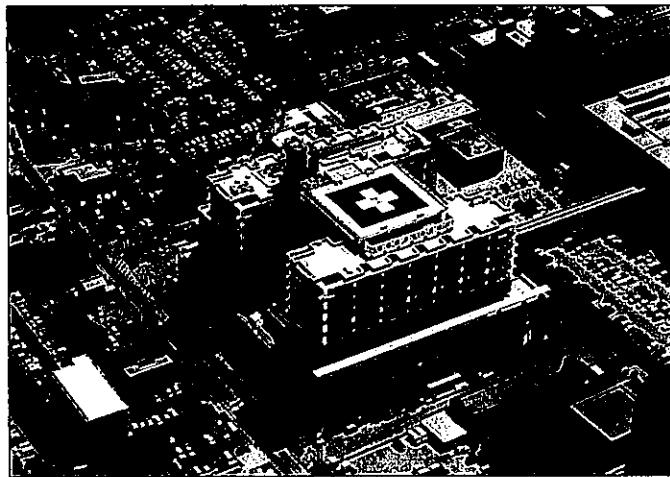
各病院の平成25年度の取組状況について

①中央病院 P 1

②三好病院 P 17

③海部病院 P 23

新・中央病院の現状
強くて優しい病院創り



平成25年9月9日
県立病院を良くする会

H24年10月新病院へ移転



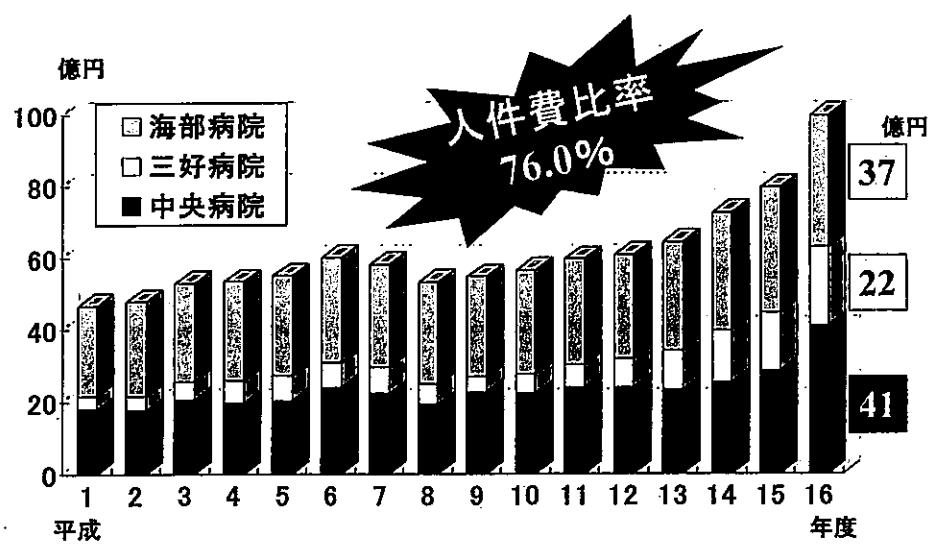
徳島県立中央病院改築事業経緯

平成 9年3月 徳島県新長期計画において、中央病院の移転改築を表明

平成11年3月 「県立中央病院改築推進委員会」において、「改築基本構想」を策定、現在地を優先すべきと答申

平成12年3月 「県立中央病院改築基本計画検討委員会」において「改築基本計画」を策定、現在地での改築を決定

累積赤字は、約100億円！



改革なくして、改築なし

経営→病院

ある委員会で

県立病院は、
医師不足、
技量不足、
やさしさ不足

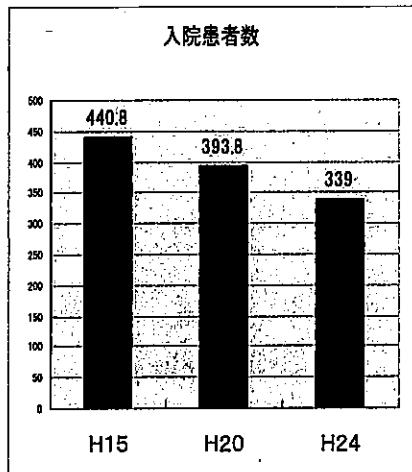
資金不足

医療コンサルタントの先生に

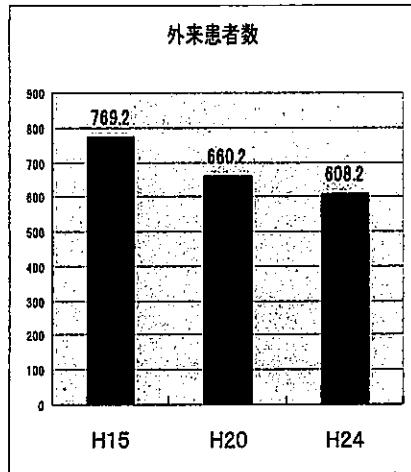
この状態での改築は
片道キップの戦艦大和だ。

当院にとって、改革の原点

入院・外来患者数

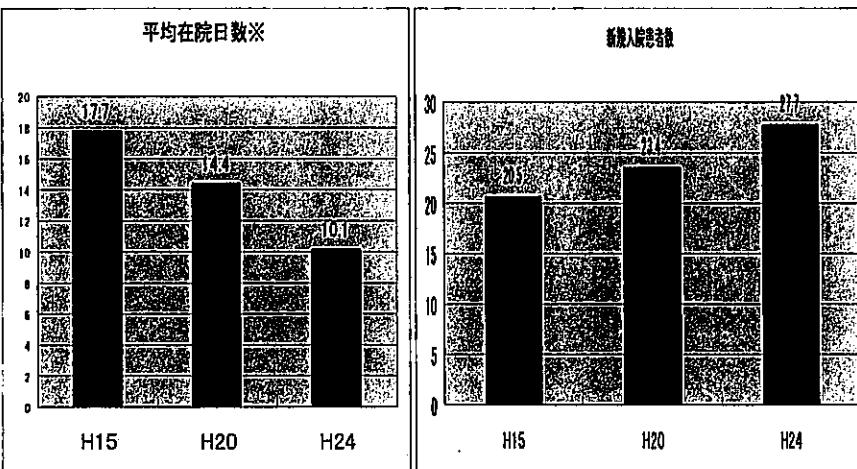


厚い看護体制のためには



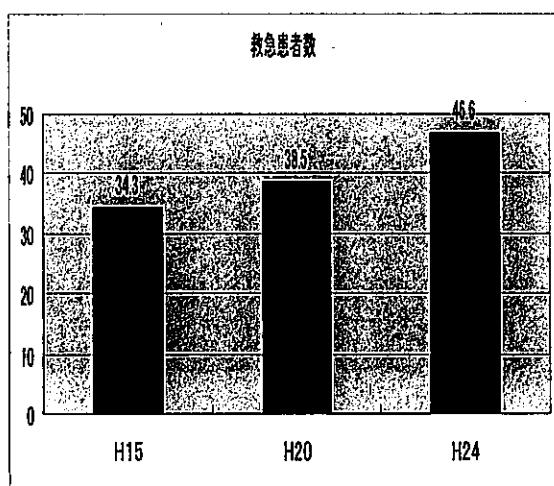
資源を入院中心にするためには

在院日数・新規入院患者数



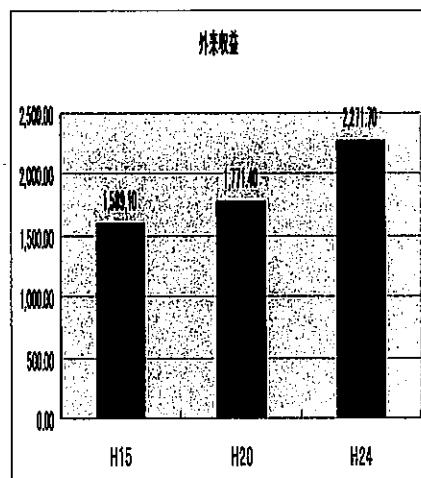
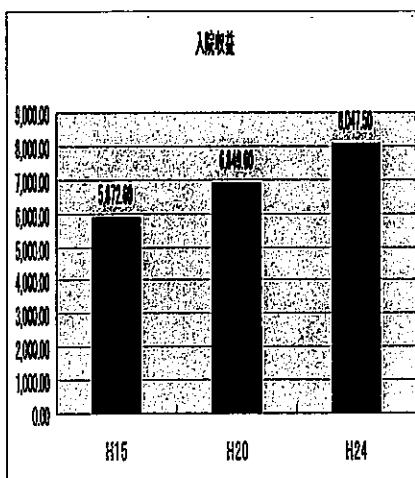
ニーズに応えるためには、病床回転をあげる。

救急患者数

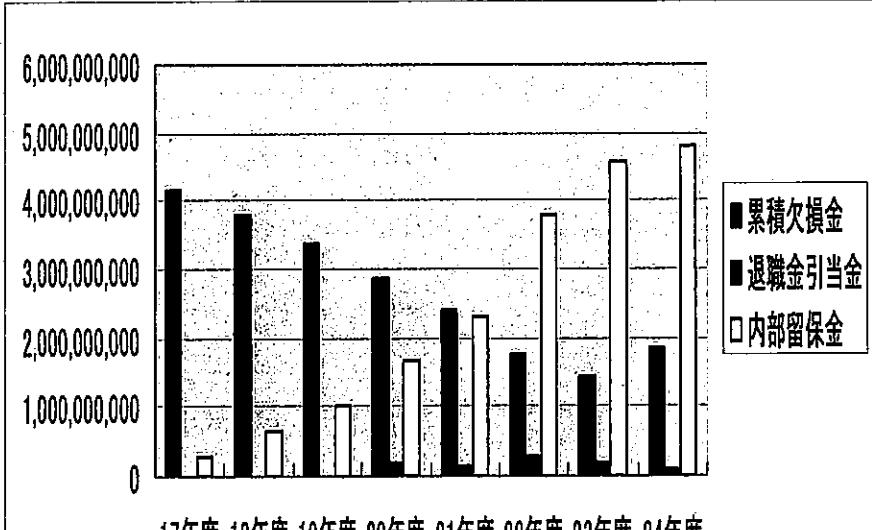


救急は紹介の始まり、信頼を得る。

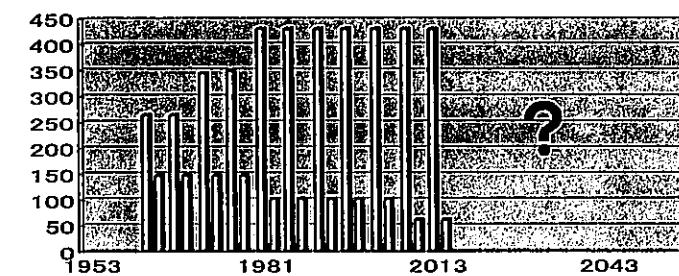
入院収益・外来収益



10年間で入院収益を22億円、外来収益を7億円增收



未来の中央病院



1953

1973

夢・ヴィジョン・目標

2012

医療人としての

夢・やりがい・誇り

思い描くこと

開院1年前に開院戦略準備室開設。

- ・外来部会
- ・病床部会
- ・救急・集中・手術部会
- ・患者サービス部会
- ・委託部会

自分達の夢を思い描こう

資 源

- ・ヒト
- ・モノ
- ・時間
- ・金
- ・情報

誠意

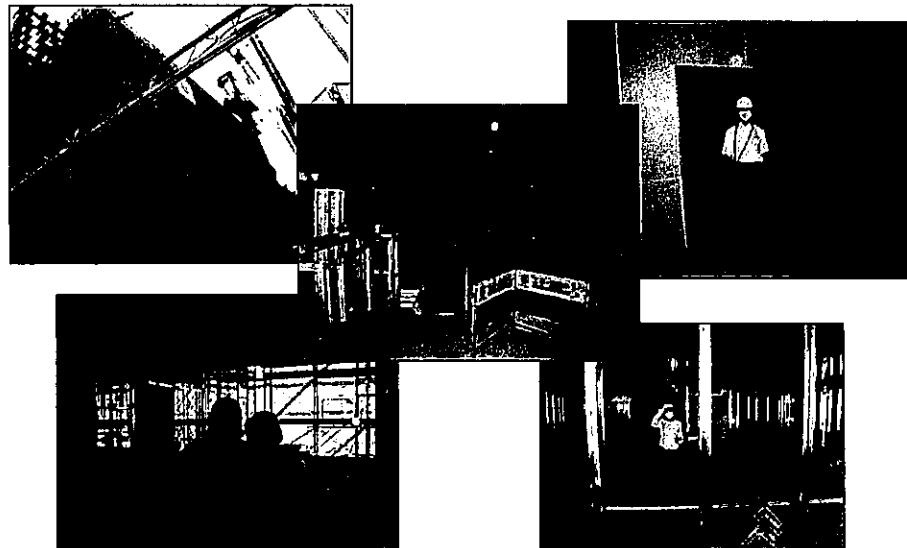
熱意

創意

明日からは無理かも知れないが・・・。

Managementとは…

思い描くこと visualize → vision



思い描き、考える

- ・自分達で考える（知的労働者）
- ・他責の文化・押しつけじゃつまらない。
- ・夢を描く。夢を目標に変える。
- ・一人の夢は夢で終わるが、みんなで見る夢は、現実となる。



徳島県立中央病院

TOKUSHIMA PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

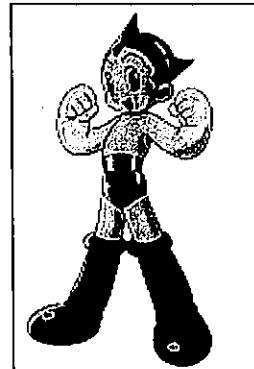
シンボルマークへの県民の想いは・・・

運営方針

- 1) 外来は原則紹介のみ。質の高い外来。
- 2) 医療資源は、手術、救急部門に投入する。
- 3) 地域医療機関で可能な領域はお願いする。
検診・ドック・局麻の手術、再診外来・・・
- 4) 政策医療（5疾病・5事業）に対応する。
あらゆる世代の身体・精神科救急
がん（県外流出率の抑制）
災害医療
- 5) 教育病院として、総合診療・救急に対応できる医療人の育成

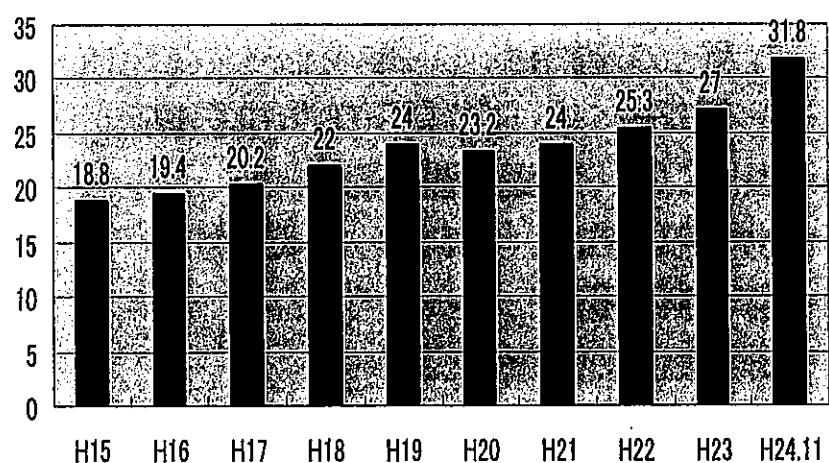
強くて・優しい病院

- ・ 強い： 断らない紹介・救急
24時間急性期病院
困難な症例を扱う

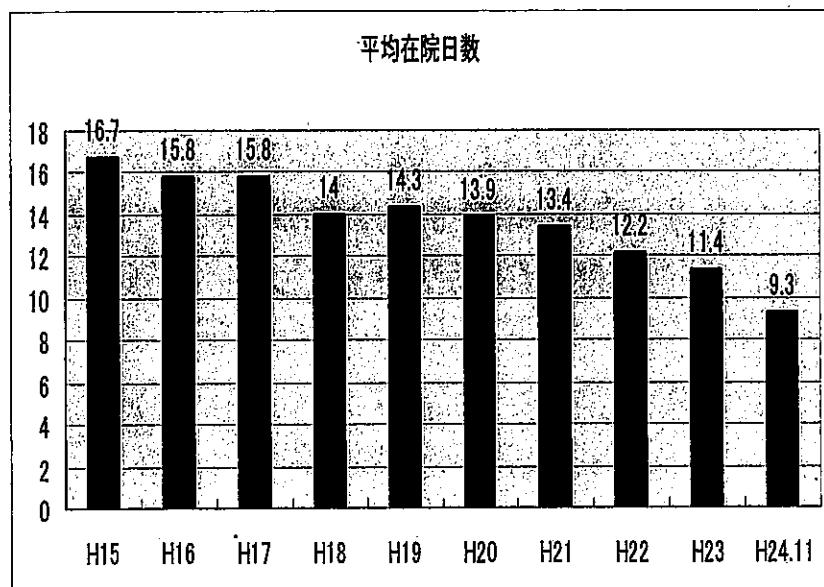


- ・ 優しい： 患者・家族
地域連携医療機関
仲間・スタッフ

1日新規入院患者数



新規入院患者＝紹介＋救急



新しい機能

- ・大学との連絡橋（人事交流・人材育成）
- ・ドクターへリ（全県下の救急医療向上）
- ・NICU（周産期医療）
- ・小児救急拠点（365日、24時間）
- ・精神科情報センター
- ・認知症疾患医療センター
- ・PET／リニアック導入（がん）
- ・災害医療



連絡橋二人事交流、救急搬送



10月9日～7月末 出動要請 239 件 (0.9件/日)
(当院 98件、他院 126件、キャンセル15件)



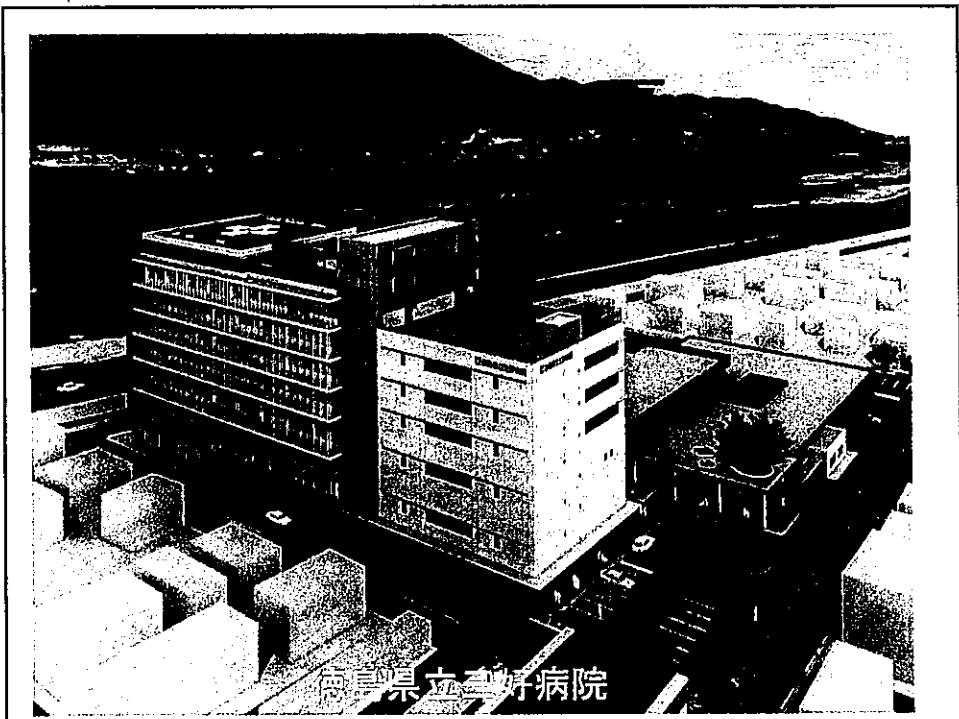
小さな命の育成

小児救急も…



働きがいのある病院創り 誇りの持てる職場創り





平成25年度 三好病院の取り組み

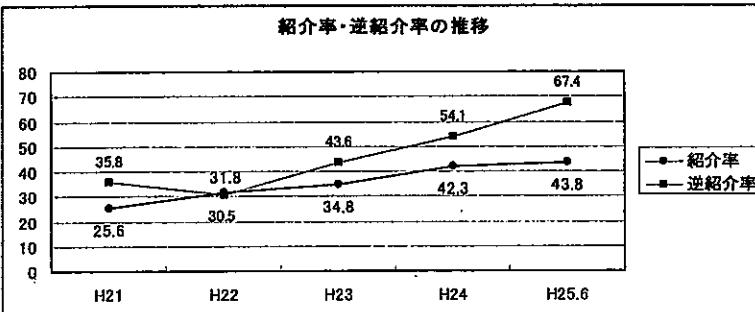
- 地域連携の強化
- がん医療の総合拠点
- 救急医療の機能の充実
- 新高層棟の開院準備の推進
- 医師・看護師の育成・確保

地域連携の強化

1 地域医療支援病院の承認

承認に向けて

- 紹介率・逆紹介率の向上
- 病床や高度医療機器の共同利用
- 地域の医療従事者の研修



2 地域医療連携運営委員会

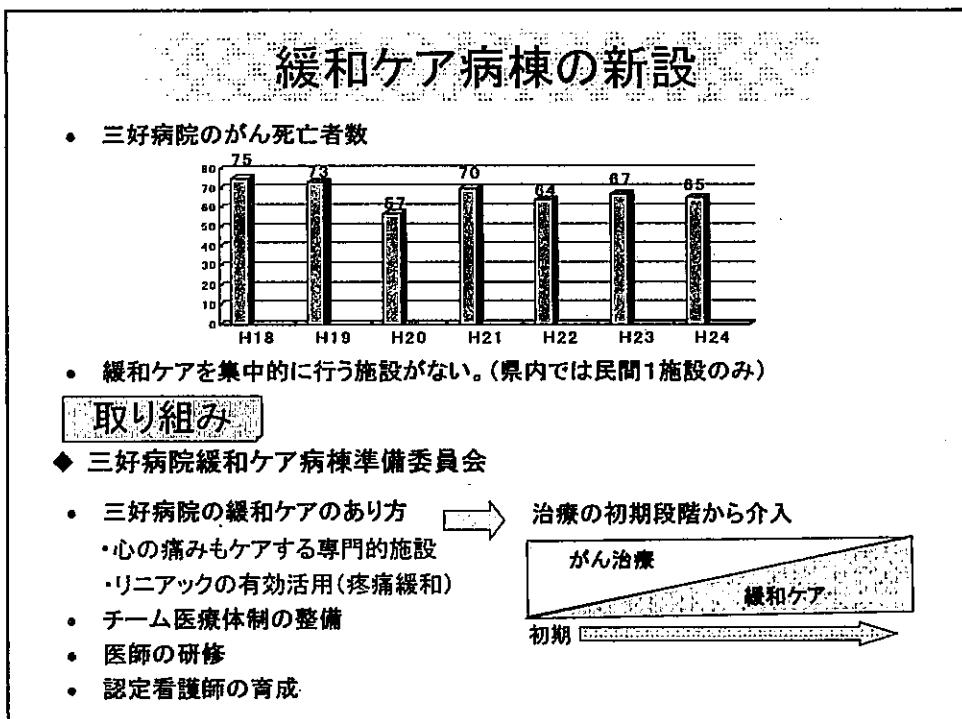
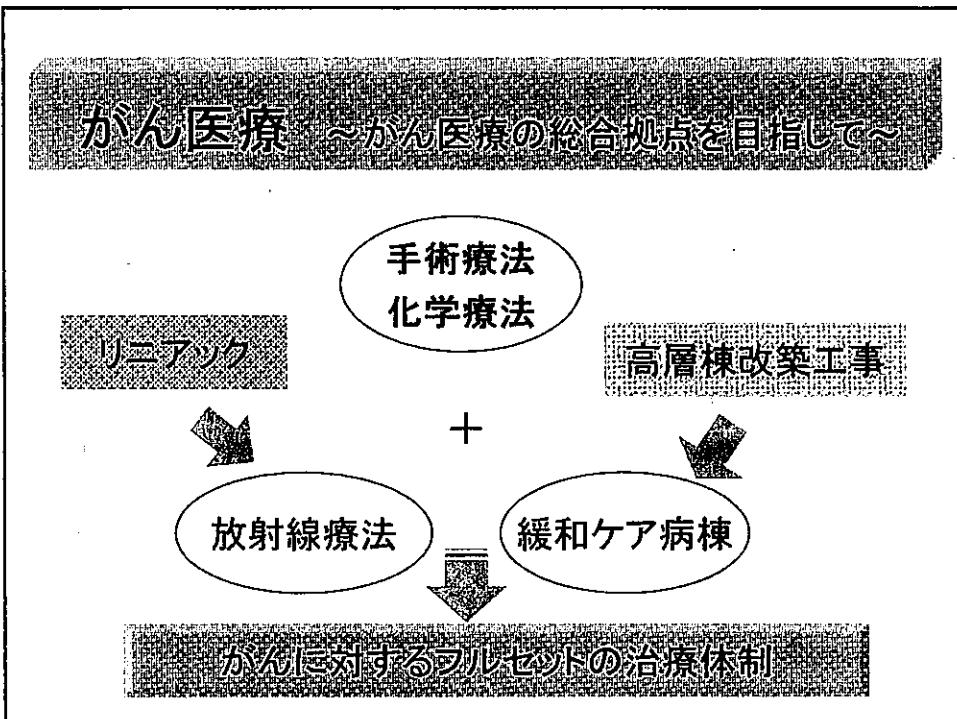
地元医師会や関係機関との連携

3 西部圏域医療情報ネットワークの整備

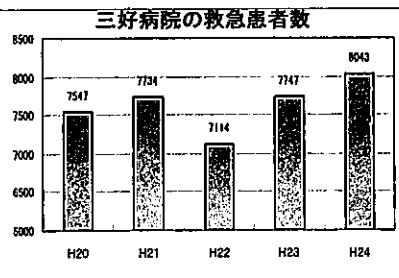
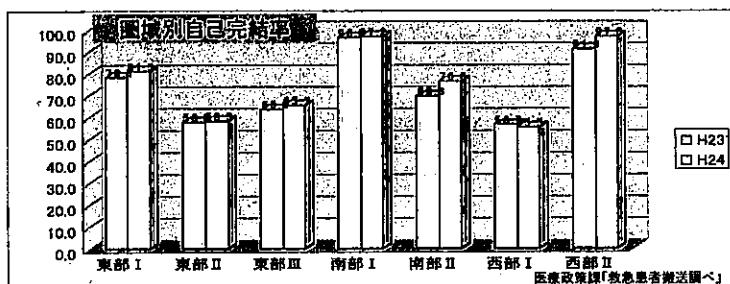
医療情報を地域の医療機関で共有

4 地域連携クリティカルパスの推進

心筋梗塞、脳卒中、大腿骨頸部骨折



救急医療 県西部の救急医療の機能の充実



新高層棟開院準備の推進

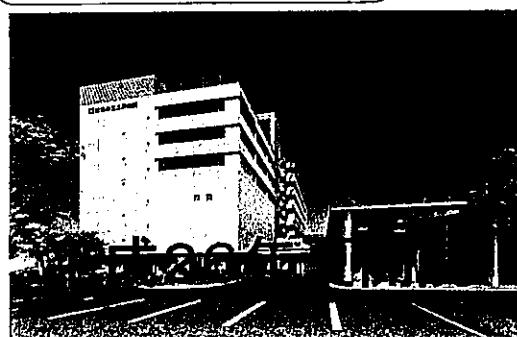
重点

放射線治療

緩和ケア病棟の開設

高度医療機器の整備

医療スタッフの確保・育成



高層棟改築に伴う

低層棟機能整備

- ・室の移設
- ・出入り口の整備

医師・看護師の育成、確保

臨床研修プログラムの整備

にし阿波3病院連携医師研修プログラム
→後期研修医の受け入れ



認定看護師の育成

感染管理、皮膚・排泄ケア、救急看護
がん化学療法、緩和ケア



取得済み

がん性疼痛、脳卒中リハビリ



研修中

四国中央部の医療の 拠点病院を目指して

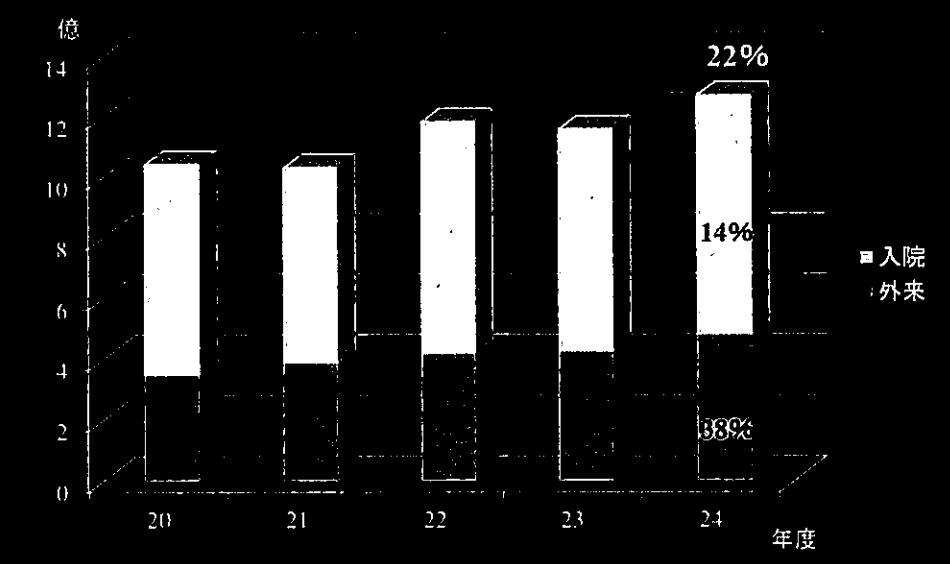
三好病院

ご聴聽ありがとうございました。

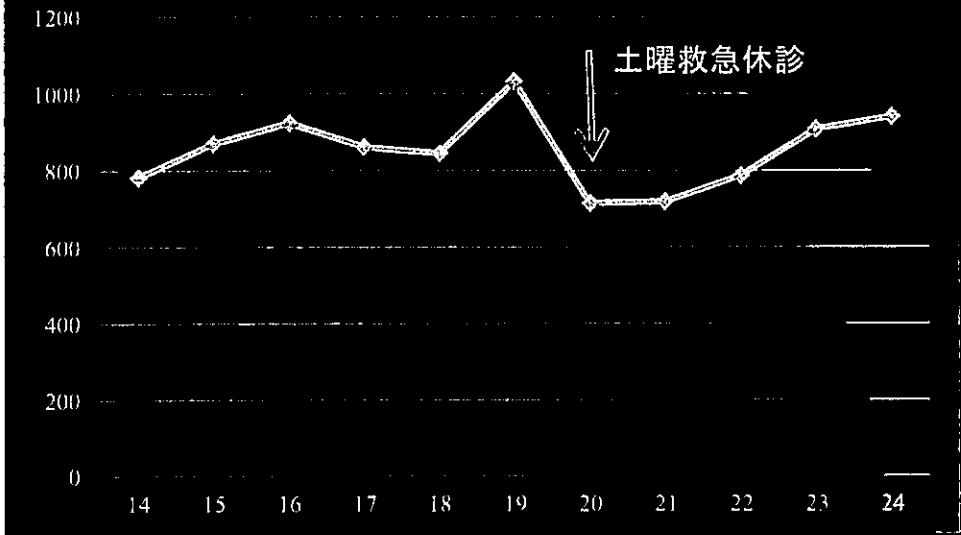
徳島県立海部病院

病院長：坂東 弘康

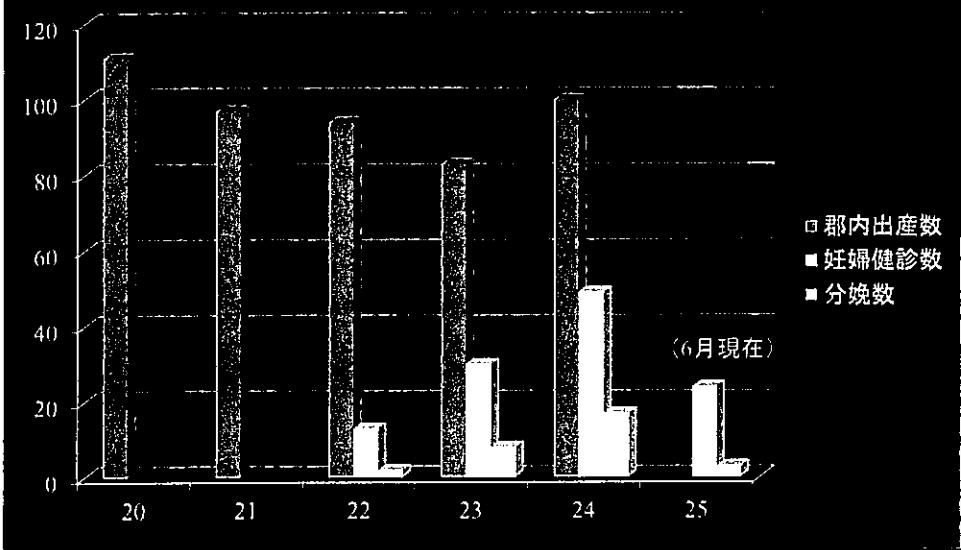
医業収益



土曜救急の再開 救急車搬送患者



分娩再開



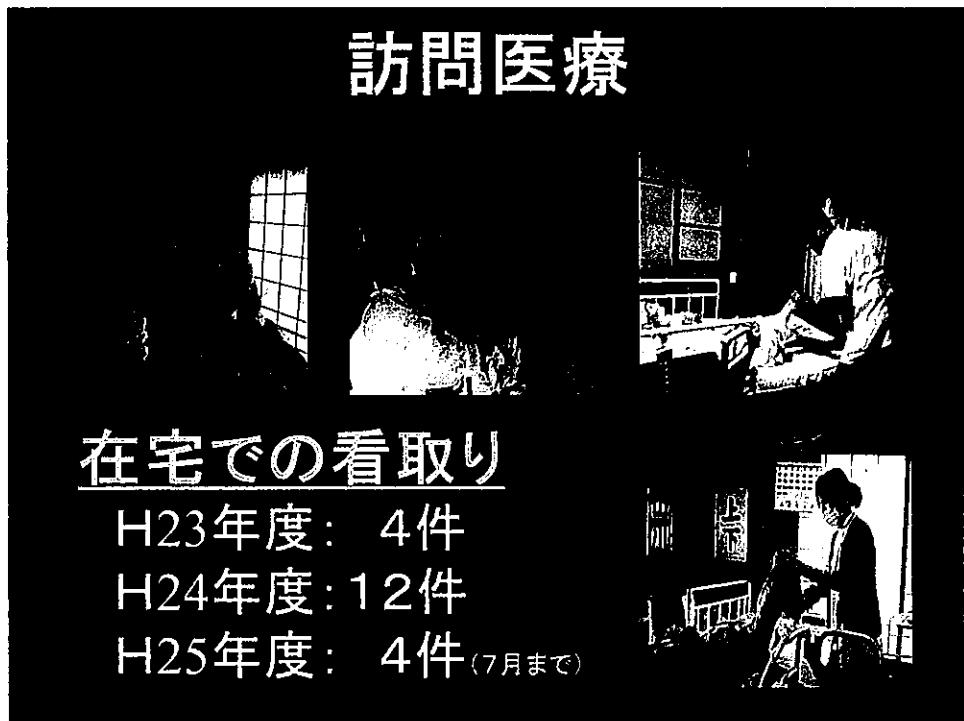
訪問医療

在宅での看取り

H23年度：4件

H24年度：12件

H25年度：4件(7月まで)



研修体制の整備

学会認定教育施設(内科系)

H22年4月～

日本アレルギー学会

日本緩和医療学会

日本内科学会 認定医:1、専門医:1

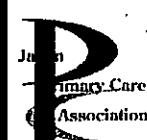
日本呼吸器学会 専門医:1

日本感染症学会 専門医:1

日本プライマリ・ケア連合学会 専門医:2

日本呼吸器内視鏡学会

日本リウマチ学会(申請予定)



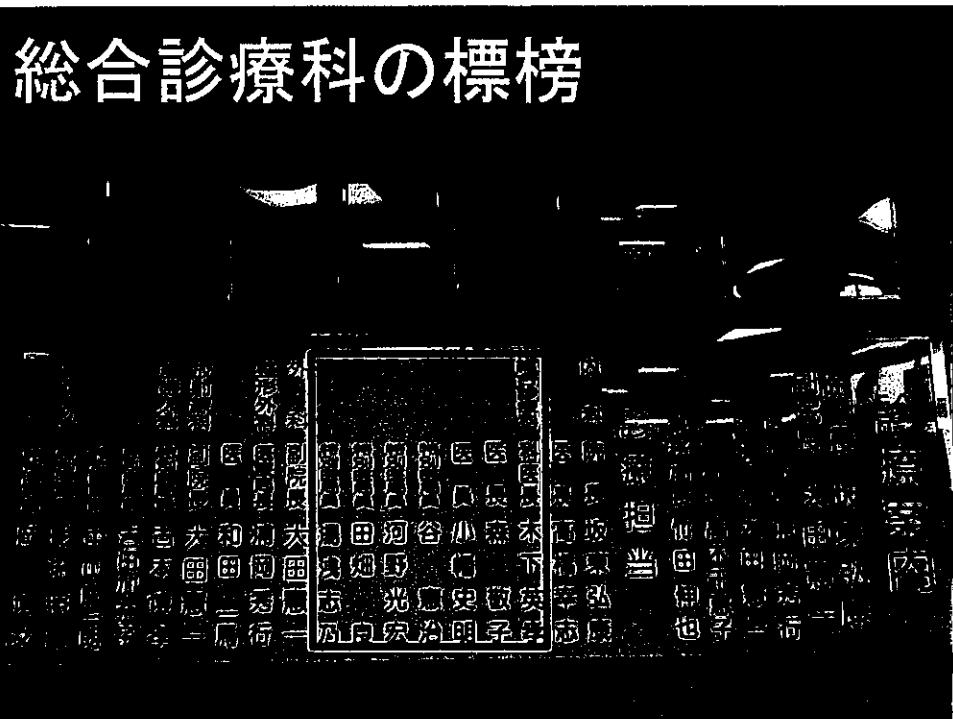
一般社団法人
日本プライマリ・ケア連合学会
Japan Primary Care Association

徳島県 (1プログラムのみ)

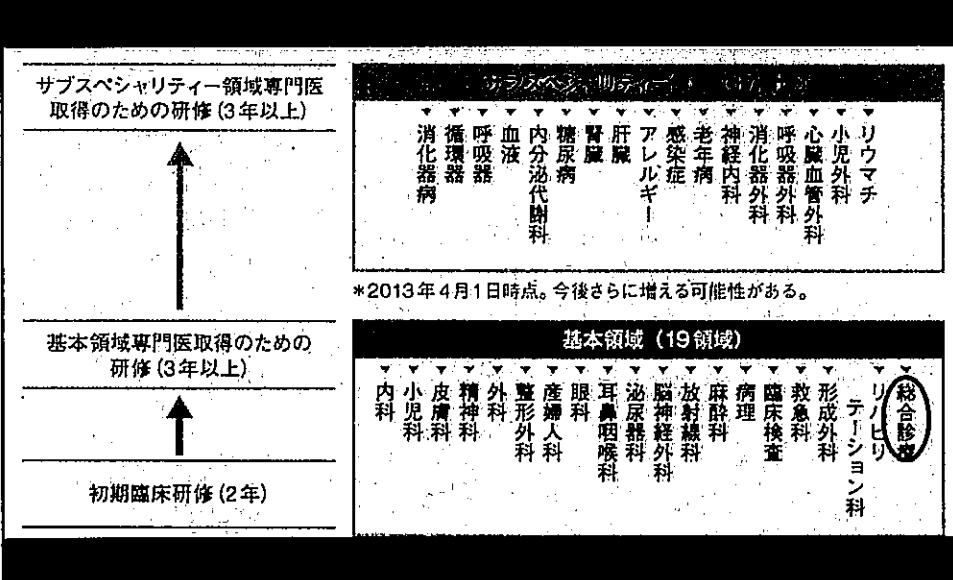
南阿波総合医・家庭医養成プログラム
【H23年度】

〒755-0006 徳島県海部郡牟岐町中村字本村75-1
徳島県立海部病院 河野 光宏
TEL. 0884-72-1166 / FAX. 0884-72-2383

総合診療科の標榜

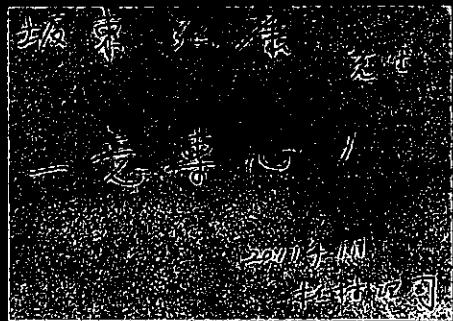


新たな専門医制度



研修体制の充実①

洛和会音羽病院グループとの連携
指導医の派遣、研修医の受け入れ

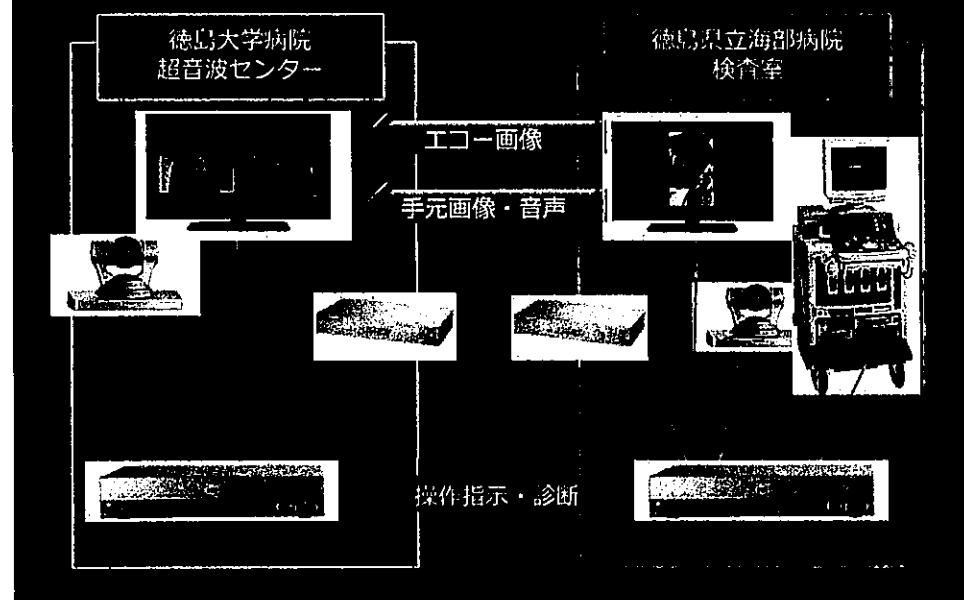


研修体制の充実②

徳島大学病院との連携

- 1) 神経内科専門外来(毎週)
- 2) 心臓血管外科専門外来(月・2)
- 3) 心臓超音波の遠隔指導

システム概要



画像品質

海部病院でのキャプチャー画像

徳島大学病院超音波センター
でのモニター画像

徳島県立海部病院

研修体制の充実③

徳島県立中央病院との連携

- 1) 泌尿器専門外来(毎週)
- 2) 皮膚科専門外来(毎週)
- 3) 耳鼻科専門外来(週・3)
- 4) 呼吸器外科専門外来(月・1)
- 5) 糖尿病専門外来(月・1)
- 6) 整形外科専門外来(月・2)

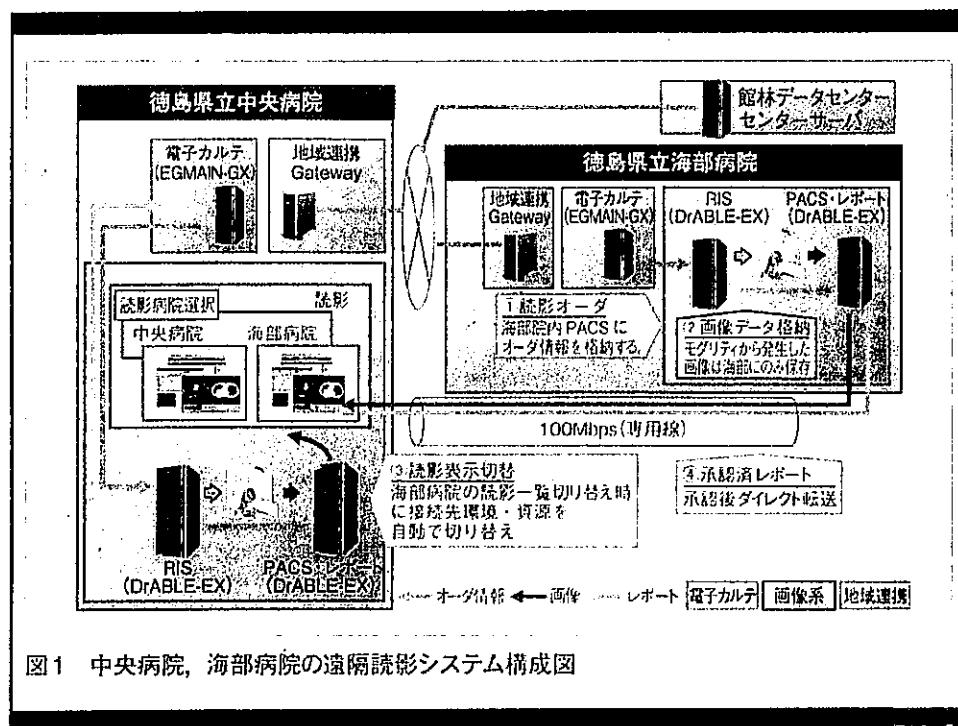


図1 中央病院、海部病院の遠隔読影システム構成図

研修体制の充実④

徳島赤十字病院との連携

- 1)外科専門外来(毎週)
- 2)腹部超音波診断の研修
- 3)整形外科手術の研修

研修体制の充実⑤

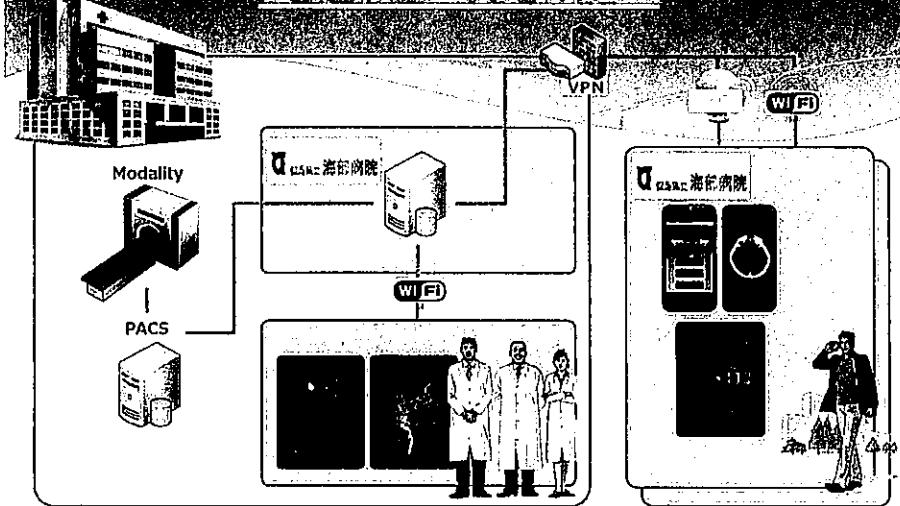
田附興風会医学研究所
北野病院との連携



地域医療研究センター



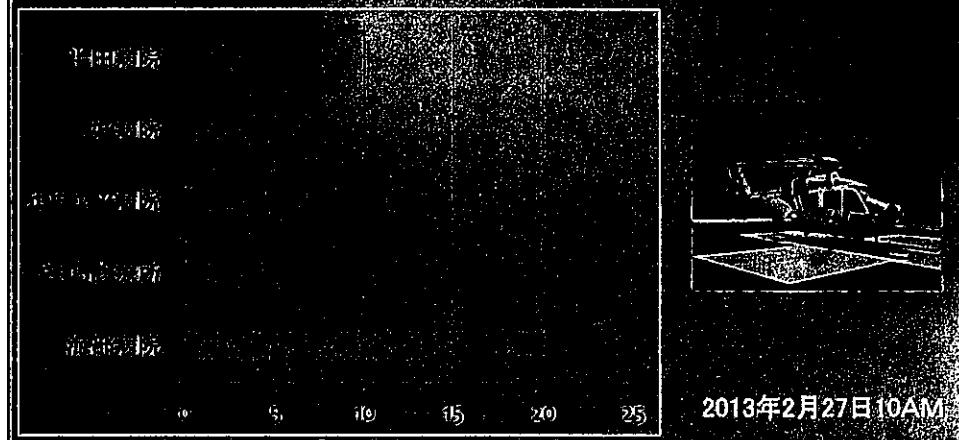
システムの概要



病院内では、院内ワイヤレスネットワーク「WIFI」を利用し、院外では「VPN/3G回線」を用いることで、病院内外問わず、医師間の連絡、指示緊急時に必要な情報を得ることができます。

中央病院へ向かうドクヘリ

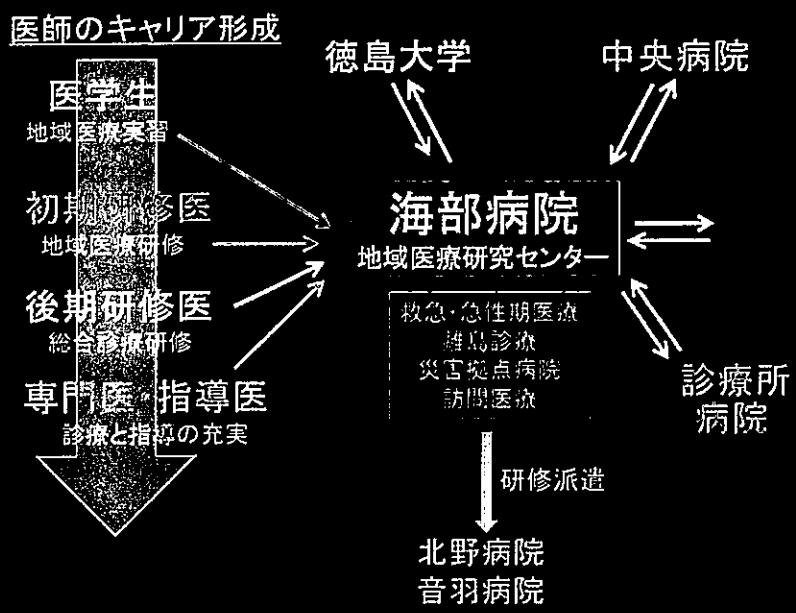
海部病院上空を通過中



ACLS研修



海部病院の機能の充実



海部病院が目指す目標

総合診療医の育成を通じ病院機能を充実させる

平成 25 年度

徳島県病院事業 第二次経営健全化計画の取組状況

県立病院を良くする会設置要綱

第2条 良くする会は、病院事業の次に掲げる事項について、必要な提言を行う。

- (1) 徳島県病院事業経営健全化計画の達成状況の評価及び見直し
- (2) その他県立病院の基本理念の実現に必要な事項

徳島県病院事業第二次経営健全化計画

5 進行管理

(1) 公表

計画の実施状況を概ね年1回以上、点検評価し、公表する。

(2) 客観性の確保

学識経験者等で構成する「県立病院を良くする会」に諮り、評価の客観性を確保する。

(3) 見直し

公立病院改革ガイドラインによる再編・ネットワーク部分については、徳島県地域医療対策協議会等の検討に合わせ、また、「総合メディカルゾーン構想」に係る具体的な機能連携については、徳島大学病院との協議状況に応じ、隨時変更し「進化する計画」として見直しを図る。

第二次経営健全化計画の評価について

1. 評価の考え方

徳島県病院事業第二次経営健全化計画で定めた経営指標、具体的取り組みの進行状況を評価するものとする。

2. 評価方法

第二次経営健全化計画で定めた目標、取り組み内容について、進行度の自己評価を下記の基準で行い、各委員により再評価していただく。

3. 進行度の評価基準

A：さらに上位レベルの目標設定が可能

B：取り組みは進んでおり、ほぼ計画を達成できる見込みがある

C：検討しているが、取り組みが進んでいるとまでは言えない

D：取り組みは遅れているが、今後着手する見通しがある

E：環境変化等により計画内容の変更が必要

進行度の評価集計表

	A	B	C	D	E	計
本局	2	19	4	0	0	25
	8%	76%	16%	0%	0%	100%
中央病院	8	49	2	0	0	59
	14%	83%	3%	0%	0%	100%
三好病院	1	45	5	0	0	54
	2%	83%	9%	0%	0%	100%
海部病院	1	44	7	0	0	52
	2%	85%	13%	0%	0%	100%
計	15	157	18	0	0	190
	8%	83%	9%	0%	0%	100%

進行度の自己評価(質の確保)①

推進項目	推進事業名	本局	中央	三好	海部
	がん診療		B	B	B
	脳卒中及び急性心筋梗塞診療		B	B	B
	糖尿病診療		B	B	B
	高度医療の充実		B	B	B
	急性期医療機能の充実に向けた看護師の増員	A	A	C	
	医師確保機能の強化	B	B	C	C
	医師の安定確保に向けた条件整備	B	B	B	B
	新たな政策医療等の実施に向けた任用制度の検討	C			
	コメディカル職員等の独自採用やスペシャリストの育成	C			
	今後の医療の質の向上に資する専門職種の適正な確保	B	B	B	B
	医療の質を示す臨床指標(クリニカル・インディケーター)の設定		B	B	B
	患者さん中心のチーム医療の実践		B	B	B
	患者さんのQOL(生活の質)を高める、各職種による指導・活動の推進	A	B	C	
	患者さんとの人間関係を重視する取り組みの推進		B	B	B

進行度の自己評価(質の確保)②

推進項目	推進事業名	本局	中央	三好	海部
	病院ボランティアの充実		B	C	C
	患者さんの視点に立ったサービスの提供		B	B	B
	治療効果を高め、満足していただける食事の提供		B	B	B
	「新中央病院における療養環境整備」 「三好病院及び海部病院における療養環境の充実」	A	B	B	
	各種病院サービスにおける利便性の向上	A	B	B	
	「県立病院の医療機能を最大限に発揮する、絆ぎ目のない連携体制構築」「連携による在宅介護支援機能の発揮」	A	B	B	
	医療の標準化に資するクリティカルパス(入院診療計画)の活用促進	B	B	B	
	医療安全文化の確立	B	B	B	
	病院機能評価の更新受審	A	A	A	
	品質管理のための教育・研修の充実	B	B	B	
	「中央病院を中心とした臨床研修医の育成」「三好病院・海部病院での地域医療研修の実施」	B	B	B	

進行度の自己評価(質の確保)③

推進項目	推進事業名	本局	中央	三好	海部
	中央病院における徳島大学病院・県医師会との協力による指導医の育成		A		
	中央病院における学生実習の充実		B		
	中央病院における、都道府県がん診療連携拠点病院としての、県内医療従事者への研修・啓発		B		
	中央病院における、地域医療支援病院としての、地域医療機関等との共同研修		B		
	中央病院における医薬品臨床試験業務(治験)の充実		B		
	質の高い看護の提供を目指した、キャリアラダーによる研修の実施		B	B	B
	各職種の専門性を高める資格取得や研修受講の促進	A	B	B	B
	県立病院学会の実施による知識の向上と共有	B	B	B	B
	先進病院に対する派遣研修の実施	C	C	B	C
	育児と仕事の両立支援	B	B	B	B

進行度の自己評価(透明性の確保)

推進項目	推進事業名	本局	中央	三好	海部
1	DPC(診断群分類別包括評価制度)の導入による医療の透明性の向上		B	B	B
2	県立病院の医療の質や提供状況がわかる臨床指標の公開(再掲)		B	B	B
3	患者さんと一緒に医療を実践する「私のカルテ」の発行		B	C	B
4	病院事業経営内容の公開	B	B	B	B
5	各県立病院毎の「住民参加会議」の開催		B	A	B
6	県民公開講座及び院内健康教室の開催		B	B	B
7	病院広報の充実	B	B	A	B

進行度の自己評価(効率性の確保)①

推進項目	推進事業名	本局	中央	三好	海部
1	安定した内部留保の確保	B			
2	各病院の機能整備の動向に即した施設基準の取得		B	B	B
3	地域連携・機能分担の実情に応じた新規患者の受入		A	B	
4	診療報酬請求漏れの防止		B	B	B
5	使用料・手数料設定の見直し		B	B	B
6	一般会計繰入金の定期的見直しと透明性の向上	B			
7	後発医薬品の採用拡大		B	B	B
8	委託契約・賃借契約における効率的な契約の実施	B	B	B	B
9	医療器械購入における競争入札の推進	B	B	B	B
10	ホテルサービス部門及び事務・管理業務等の委託化	B	B	B	B
11	未収金の発生防止と回収促進	C	C	C	C
12	業務改善の手段としての情報化の推進		B	B	B

進行度の自己評価(効率性の確保)②

推進項目	推進事業名	本局	中央	三好	海部
13	地方公営企業法全部適用による効果の最大限の発揮	B			
14	経営戦略会議の充実	B	B	B	B
15	幹部職員の經營管理力の向上		B	B	B
16	DPC(診断群分類別包括評価)データ活用による経営分析の実施	B	B	B	C
17	目標設定とPDCAサイクルによる進行管理の推進		B	B	B
18	全部門による実績報告・目標発表会の実施		B	A	B
19	堅実な危機管理体制の構築	B	B	B	B
20	3病院及び病院局本局の一体的の運営	B			
21	3病院の診療面の連携・協調		B	B	B
22	資産等購入における共同化の拡充	B	B	B	B
23	経営指標	B	B	B	C

項目:質の確保6	病院局	中央病院	三好病院	海部病院
医師確保機能の強化	B	B	C	C

各病院の常勤医師の不足が続く状況においては、病院事業管理者を補佐し、医師確保に係る企画・情報収集・交渉等を行う機能を充実するほか、研修医確保のための企画立案や各病院との調整を図るなど、全組織を挙げた医師確保機能の強化に努めます。

病院局 ○徳島大学寄附講座の設置
○医師の給与や手当に係る待遇改善
○研修制度の充実や医師事務作業補助者の導入による勤務環境改善

中央病院 ○基幹型の研修プログラムの実践
○徳島大学寄附講座「ER・災害医療診療部」、委託講座「小児医療支援センター」
○医師事務作業補助者の導入

三好病院 ○徳島大学寄附講座「地域外科診療部」
○医師事務作業補助者の導入
○学会への参加や資格取得への支援

海部病院 ○徳島大学寄附講座「総合診療医学分野」、「地域産婦人科診療部」、「地域脳神経外科診療部」
○医師事務作業補助者の導入

“三好病院及び海部病院における慢性的な医師不足”

項目:質の確保13	病院局	中央病院	三好病院	海部病院
患者さんのQOL(生活の質)を高める、各職種による指導・活動の推進	—	A	B	C

各職種の職員が、それぞれ有する専門的能力を発揮し、患者さんのQOL(生活の質)を高め、回復力・予防力の向上に貢献する指導や相談事業等を積極的に実施します。

中央病院 ○薬剤管理指導件数 10,801件
○栄養管理指導件数 1,220件
○検査手帳・レントゲン手帳の一体化運用

三好病院 ○薬剤管理指導件数 2,397件
○栄養管理指導件数 690件
　　入院患者及び外来患者の栄養管理指導を実施

海部病院 ○薬剤管理指導件数 1,202件
○栄養管理指導件数 145件
　　今後は患者さんのQOLを高めるための指導や相談事業などを実施する

項目:質の確保 20	病院局	中央病院	三好病院	海部病院
県立病院の医療機能を最大限に發揮する、 継ぎ目のない連携体制構築	一	A	B	B
地域の医療機関の機能分化と連携による、必要な医療を切れ目なく提供する体制の構築を目指し、県立病院と地域医療機関との連携をより一層強化します。				
また、連携を促進するため、患者さんの治療開始から終了までの全体的な治療計画である「地域連携クリティカルパス」の運用を積極的に進めるとともに、広域でのパスの統一化に努めます。				
さらに、医療・保健・福祉の領域を超えた連携をリードする地域医療連携部門のスタッフ(看護師・事務・MSW・PSW等の職種)を充実し、関係各機関との調整能力を高めます。				
中央病院	○脳卒中、急性心筋梗塞、大腿骨頸部骨折、肺がん等、県下統一されたもの、あるいはそれに準ずる地域連携パスを運用し、機能分化と連携を進めた。 地域医療連携スタッフ2名(PSW)が増員され、急増する医療相談への対応を含め、関係機関と調整を図った。			
三好病院	○地域連携クリティカルパスの作成・使用及び見直しを実施。 「脳卒中連携パス36例」、「心筋梗塞連携パス1例」			
海部病院	○脳卒中連携パスを運用し、広域でのパスの統一化を図った。 地域支援室(4名体制)において、地域の医療機関や施設との連携業務を実施。引き続き、訪問診療、訪問看護等の在宅医療を推進。			

項目:質の確保 32	病院局	中央病院	三好病院	海部病院
各職種の専門性を高める資格取得や 研修受講の促進	A	B	B	B
各県立病院がそれぞれの担うべき機能に応じ研修方針・研修計画を策定し、各職種の資格取得を推進するとともに、取得後の技術・ノウハウ活用を図ります。				
病院局	○平成24年度は看護師4名が認定看護師の資格を取得(中央1、三好2、海部1) これまでに13名の認定看護師が誕生 ○小児救急看護及び緩和ケアの2分野で認定看護師の養成機関へ看護師を派遣し、研修を終了			
中央病院	○平成24年度において看護師1名(集中ケア)が資格取得。これまでに認定看護師7名が誕生。(緩和ケア2名、感染管理1名、皮膚・排泄ケア1名、集中ケア2名、救急看護1名) 感染管理認定看護師は専従となりICTラウンドの開始に繋がっている。 医療技術局では、医学物理士資格取得の為に、計画的な研修会参加等を進めている。			
三好病院	○平成24年度において看護師2名(がん化学療法、救急看護)が資格取得。これまでに認定看護師4名が誕生。(感染管理1名、皮膚・排泄ケア1名、がん化学療法1名、救急看護1名) 各分野の学会や研修会へ参加し、知識・技術の向上を図った。 医療局、医療技術局において専門研修等を受講。			
海部病院	○平成24年度において看護師1名(糖尿病)が資格取得。これまでに認定看護師2名が誕生。(感染管理1名、糖尿病1名) 各職種の専門性を高める資格取得や研修受講を推進。			

項目:透明性の確保 2	病院局	中央病院	三好病院	海部病院	
県立病院の医療の質や提供状況がわかる臨床指標の公開	—	B	B	B	
患者さんの選択に役立つことや税が投入された病院としての成果を示すため、がんの術後生存率、手術後の死亡率、疾病別手術件数、術後在院日数等、診療の結果や治療成績などの実績について、ホームページでの公開に取り組みます。					
中央病院 平成21年度に臨床指標をホームページに公開しているが、平成24年度に、さらに公開できる臨床指標や公開すべき実績について検討を進めた。					
三好病院 科別手術件数、地域別退院患者数、救急患者数、科別入院平均在院日数等ホームページで公開しており、平成24年度は手術及び術後在院日数に関する統計を作成した。					
海部病院 科別手術件数、科別・地域別患者数、救急患者数、科別入院平均在院日数、病類別病床利用率、地域別退院患者数、退院死亡率などの指標をホームページで公開している。 今後は、疾病別手術件数や術後在院日数などの臨床指標の公開に取組みたい。					

項目:効率性の確保 3	病院局	中央病院	三好病院	海部病院	
地域連携・機能分担の実情に応じた新規患者の受入	—	A	B	—	
中央病院及び三好病院については、いずれも核となる医療機能として急性期医療機能の発揮を目指し、診療圏内の地域医療機関との連携により、新規入院患者数の増加を図ります。					
中央病院 一般病床平均在院日数は、9.8日となり、急性期病院としての機能を発揮している。新規入院患者数は、571名増加の10,114名となった。 紹介率85.4%, 逆紹介率109.4%					
三好病院 社会的要請や医療・保健環境の特性に応じる地域中核病院機能の取り組みとして、つるぎ町立半田病院・三好市立三野病院の間で、「徳島県西部保健医療圏における適正な医療を確保するための協定書」を締結し、3病院間の協力体制を実施している。 また、急性期医療分野での機能を十分に果たすためには、今後も引き続き診療圏内の病院及び診療所との連携に向けた検討・協議を行うとともに、医師の確保に向けた取り組みを強化する必要がある。 一般病床平均在院日数 17.2日、新規入院患者数60名増加の3,363名 紹介率42.3%, 逆紹介率54.1%					

項目:効率性の確保 7	病院局	中央病院	三好病院	海部病院
後発医薬品の採用拡大	—	B	B	B
後発医薬品の採用については、患者さんの負担軽減とともに、薬品費の削減に繋がるため、積極的に採用を増やします。				
中央病院	後発医薬品採用における購入額ベースは8.3%であった。平成24年度医末に造影剤4品目について後発医薬品への切り替えを決定した。			
三好病院	平成24年1月から後発医薬品の採用拡大に向けて計画的な方針を定め、実施しており、平成24年度末では購入額ベースで8.6%の採用となった。			
海部病院	後発医薬品採用における購入額ベースは7.7%であった。			
今後も積極的な後発医薬品の採用に努める				

項目:効率性の確保 22	病院局	中央病院	三好病院	海部病院
資産等購入における共同化の拡充	B	B	B	B
各種の器械・材料・消耗品等の購入については、今後も引き続き共同化のメリットを追求し、効率化に努めます。なお、総合メディカルゾーンの機能連携の一つとして、徳島大学病院との医薬品及び医療材料の共同購入について検討します。				
病院局	高額医療器械:中央病院では新病院で使用する医療器械を数台まとめて入札を行うとともに、三好病院、海部病院の超音波画像診断装置を一括入札で購入し、価格低減を図った。 医薬品・材料費:3病院一括での共同購入を実施することで、経費削減を図った。 医療材料については、平成25年度購入分の対象品目数を平成24年度の60品目から100品目へ増やし、入札を実施。			
中央病院	高額医療器械を数台まとめての一括入札及び医療材料の共同入札・購入の実施。徳島大学との総合メディカルゾーンでの取り組みとして、医薬品の一部については年度途中に共同で交渉を行い、単価の引き下げが図られた。			
三好病院	高額医療器械(1件:超音波診断装置)の購入では、海部病院との一括購入を実施。医療材料の共同購入品目数は60品目。			
海部病院	高額医療器械について、超音波診断装置を三好病院と共同で一括入札を実施。医療材料は60品目について共同購入を行った。			